資料2

アルコール健康障害対策
断酒会の取り組み
～アルコール依存症対策を中心に～

令和7年4月28日

公益社団法人全日本断酒連盟

アルコール健康障害対策について

（アルコール健康障害対策推進基本計画策定後の施策）

○2017年度 受診後の患者支援に係るモデル事業の構築

○2020年度地域連携等による依存症患者の早期発見から早期対応、地域資源への接続、継続的なサポートに至る一貫した形でのモデル事業を創設

○第二期アルコール健康障害対策推進基本計画

各地域において、アルコール健康障害の早期発見・早期介入、切れ目のない治療・回復支援を実現するため、内科、救急等の一般医療、一般の精神科医療機関、専門医療機関、相談拠点、自助グループ等の関係機関の連携体制（SBIRTS)の構築を推進する。

断酒会のアルコール健康障害対策への対応

○アルコール関連問題啓発市民公開セミナーの展開
　全国主要都市 約50回／年 地方自治体より受託・共催

○全国大会（年1回　厚労省・日本医師会後援）

○ブロック大会（年９回　地方自治体等共催・講演）

○全国一斉アルコール関連問題啓発街頭キャンペーン
　47都道府県主要都市　参加者2500名　厚労省・警察庁後援
　飲酒運転根絶、アルコール依存症の早期発見・早期対応

○SBIRTSの普及促進事業の展開
　アルコール依存症の早期発見・早期対応・継続支援
　顔の見える地域連携の構築、医療連携の促進

全国大会

アルコール関連問題啓発全国一斉街頭キャンペーン

アルコール健康種害対策基本法成立後10年の断酒会

○ 活性化の兆しが見えない断酒会活動
- ・依存症対策支援事業実施の遅れ
- ・増加しない会員数、新入会員数、進む高齢化

○SBIRTS普及促進事業の効果を阻んだ新型コロナ感染問題による打撃
- ・断酒例会、啓発活動の制限（自助グループ）
- ・地域連携の分断現象（医療・行政）

断酒会は苦しんでいる

○会員数・家族会員数の減少
7,688人（2015年）→　4,908人（2024年）64%

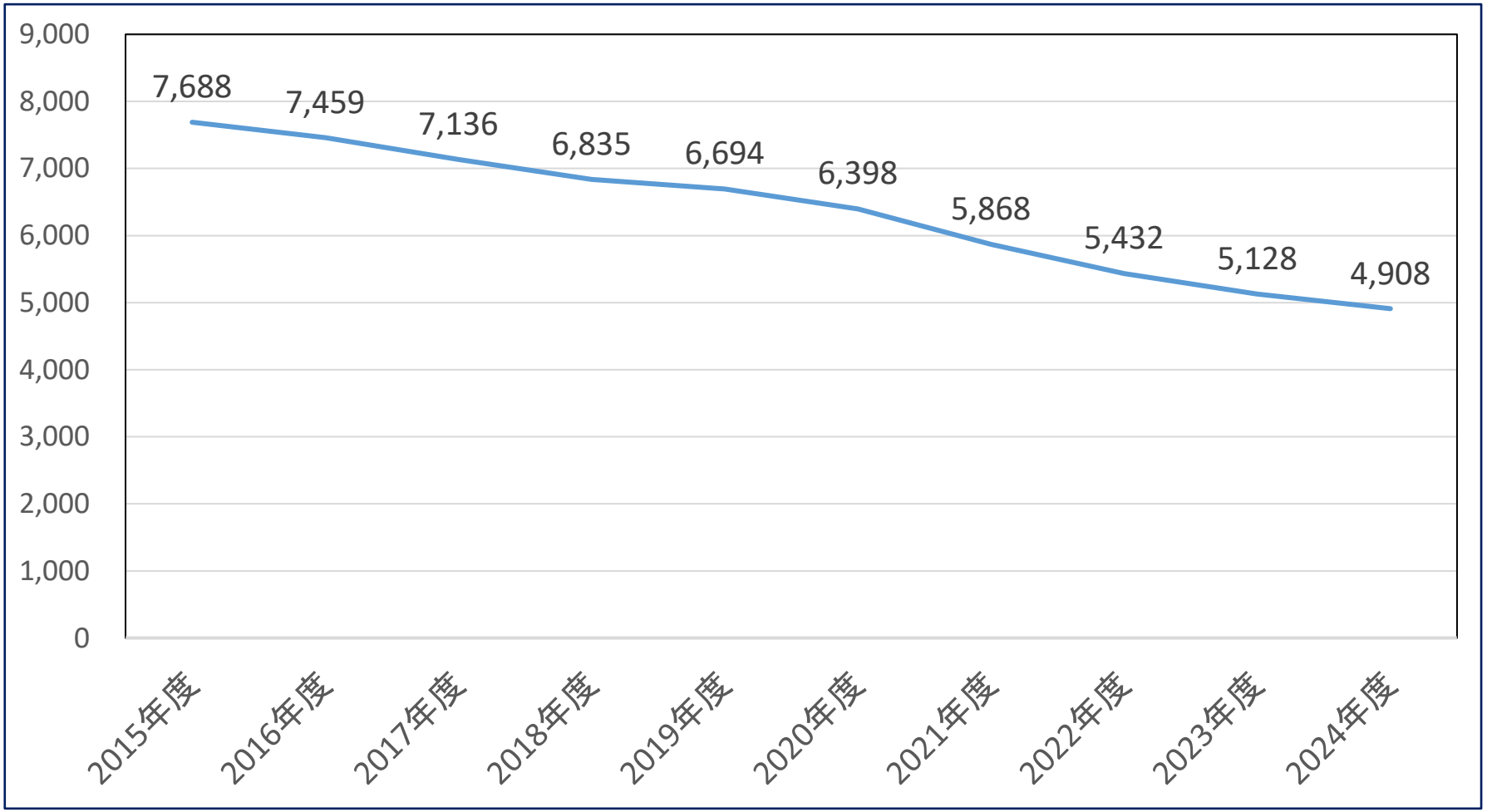
○新入会員数の減少
1,003人（2015年）→　　581人（2024年）58%

○深刻な高齢化（70歳以上の会員比率）
2,059人＝27.8%（2015年）→ 1,600人＝32.6%（2024年）

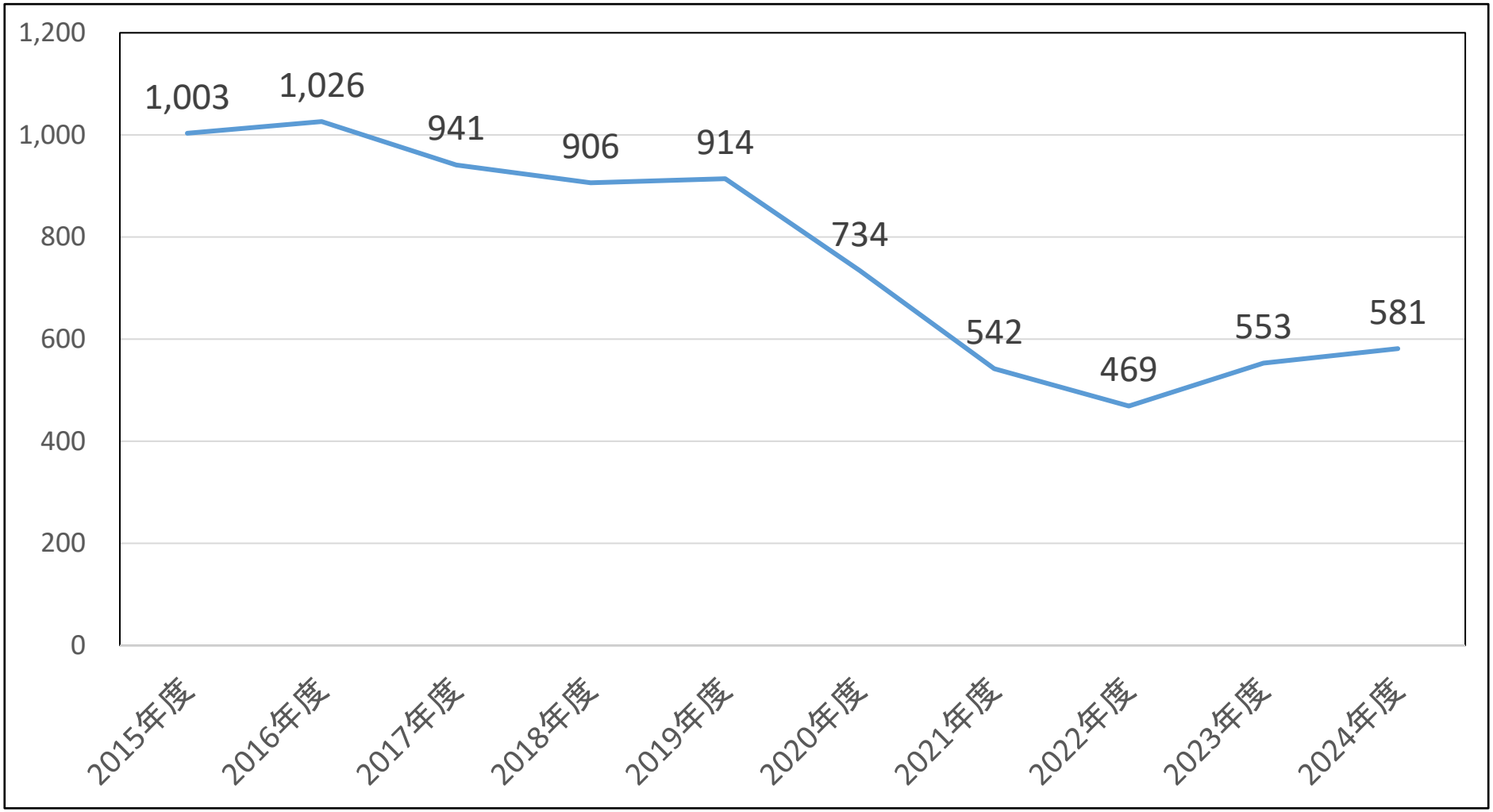
○活動の沈滞傾向（断酒例会の動向）
開催回数　41千回（2015年）→ 32千回（2024年）78%
参加者数 636千人（2015年）→306千人（2024年）48%

○新型コロナ感染問題による地域連携の分断が拍車

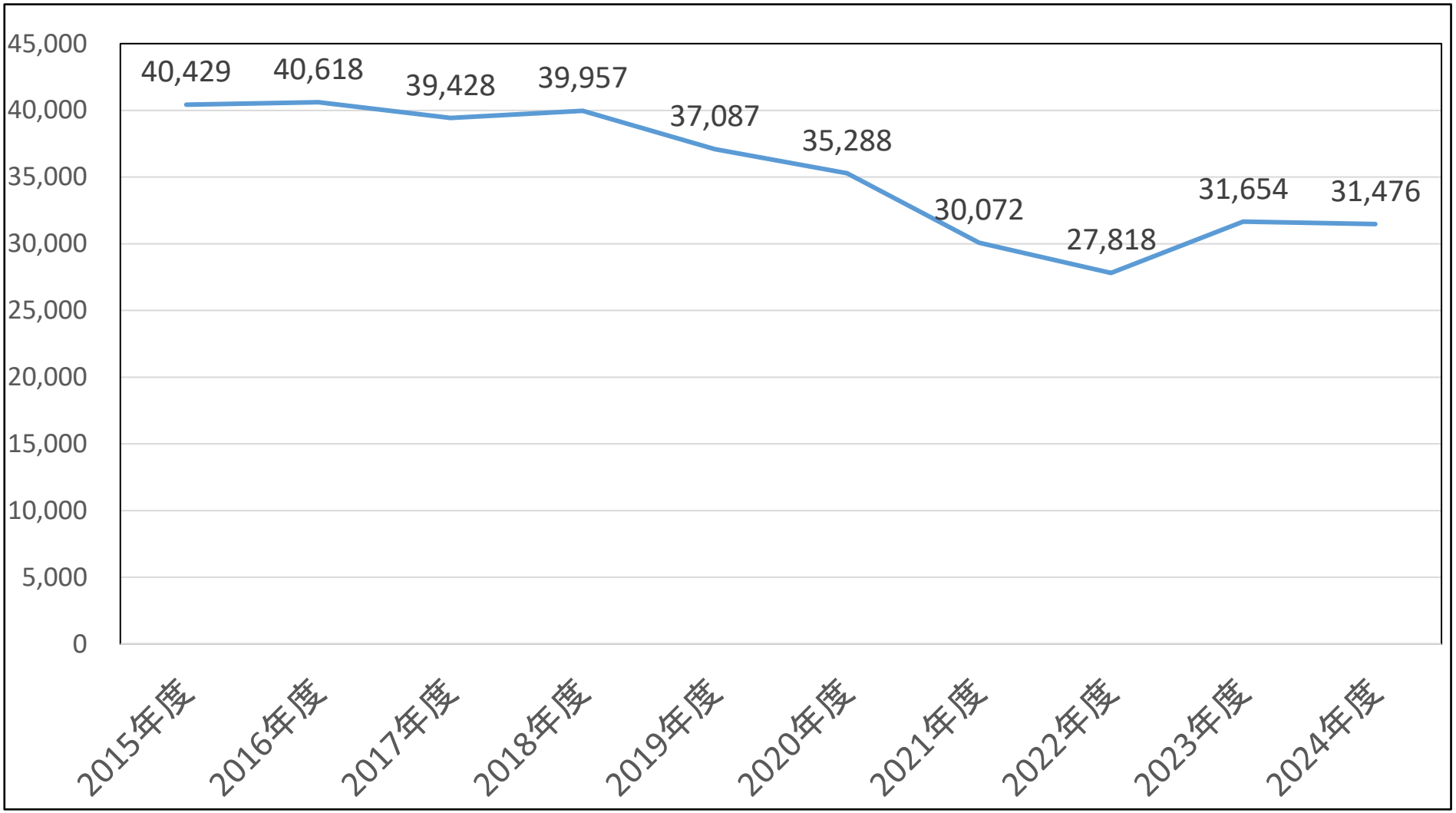
会員数の推移


9,000
8,000
7,000
6,000
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
7,688
7,459
7,136
6,835
6,694
6,398
5,868
5,432
5,128
4,908
2015年度
2016年度
2017年度
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度

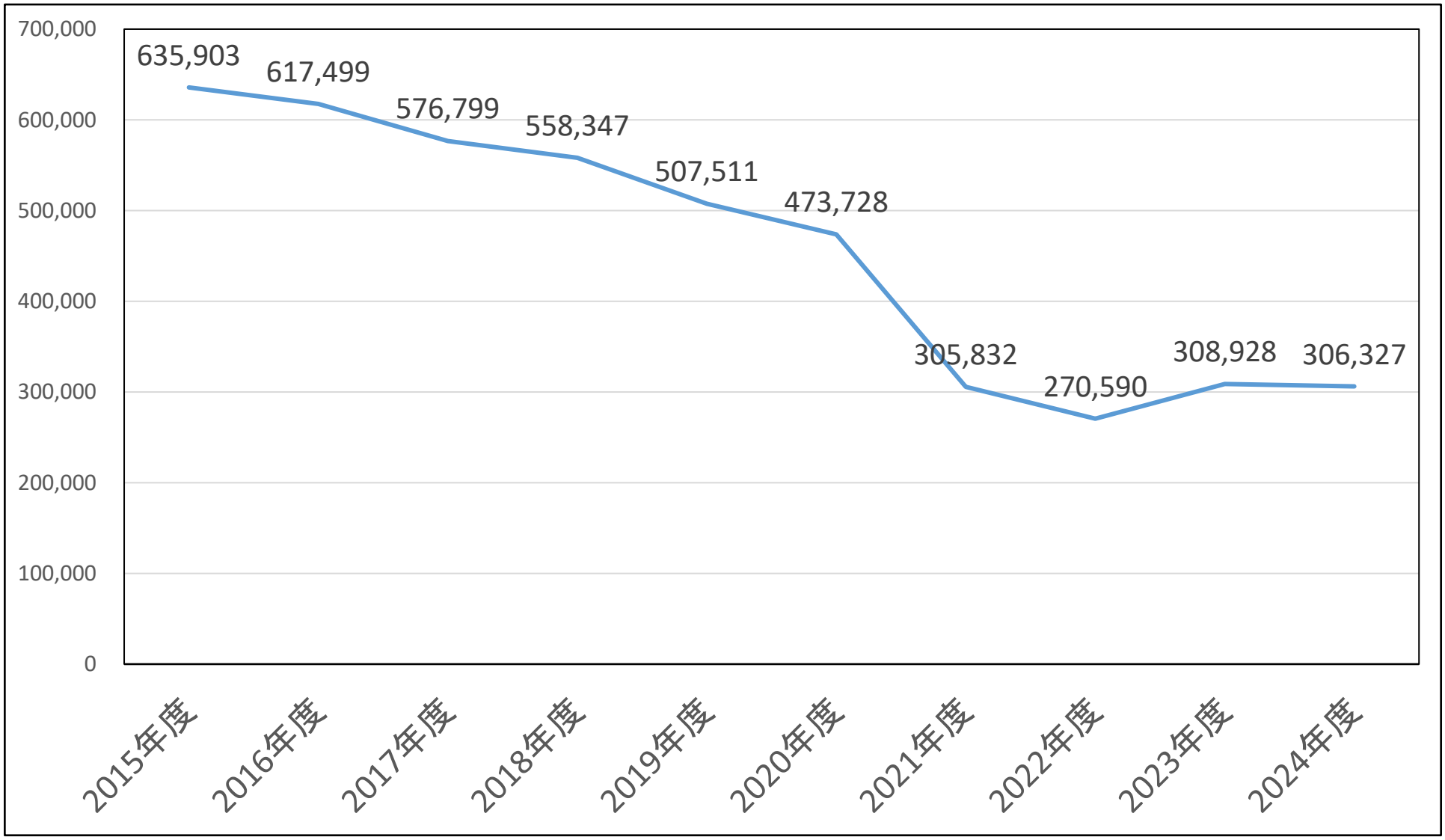
新入会員数の推移


1,200
1,000
800
600
400
200
0
1,003
1,026
941
906
914
734
542
469
553
581
2015年度
2016年度
2017年度
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度

断酒例会開催数の推移


45,000
40,000
35,000
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0
40,429
40,618
39,428
39,957
37,087
35,288
30,072
27,818
31,654
31,476
2015年度
2016年度
2017年度
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
2022年度
2023年度
2024年度

断酒例会参加者数の推移



SBIRTSは
アルコール依存症対策の切り札

SBIRTS普及促進３事業を展開

１．SBIRTS普及促進セミナーの全国展開（2018～）

２．地域資源（自助グループ）に対する SBIRTS実践の研修会（2022～）

自助グループによるアルコール依存症者、問題飲酒者の受け入れ態勢の整備

３．依存症対策啓発キャンペーン（2020～）

アルコール関連問題啓発週間（11/10～16）に実施

街頭啓発キャンペーン（47都道府県）

・「アルコール依存症の回復をめざして」

・「飲酒運転根絶」

SBIRTS普及促進セミナーの展開へ

〇厚生労働省依存症民間団体支援事業補助金の交付
　2018年度～

〇地域行政・地域医療機関と顔の見える連携の構築

セミナーの趣旨

1．地域行政、地域医療、自助グループの連携により医療・相談から自助グループによる長期的な回復への円滑な移行をめざす

2．自助グループの活性化を図り、ｱﾙｺｰﾙ健康障害対策、依存症対策における自助グループの役割の遂行能力を強化する

3．各地域において、地域連携によるアルコール依存症の早期発見・早期対応、地域資源による継続支援を実施する

SBIRTS普及促進セミナーの展開

○主催者：公益社団法人全日本断酒連盟
　　地域行政機関、地域拠点病院、地域医師会等

○主管者：開催地域断酒会

○講演者：猪野亜朗（泊ファミリークリニック 副院長）
　　辻本士郎（東布施野田クリニック 名誉院長）
　　菅沼直樹（刈谷病院アディクション・センター長）
　　和気浩三（新生会病院 院長）

○参加対象者：地域自治体担当職員、地域行政職員
　　医師、コメディカル等70～１５０名

○オンライン配信併用のハイブリッド方式（2022～）

（累計）
2018～2024

○28地域、55回開催

○参加者数　4,349名

○参加者内訳　行政関係　24%
医療関係　35%

SBIRTS実践の研修会

〇2022年度から年１回　一泊二日

〇参加者：基調講演講師1～２名
　　自助グループ中堅会員６０～７０名
　　自助グループ家族　２０～３０名

〇テーマ：SBIRTSによる受け入れ態勢の整備

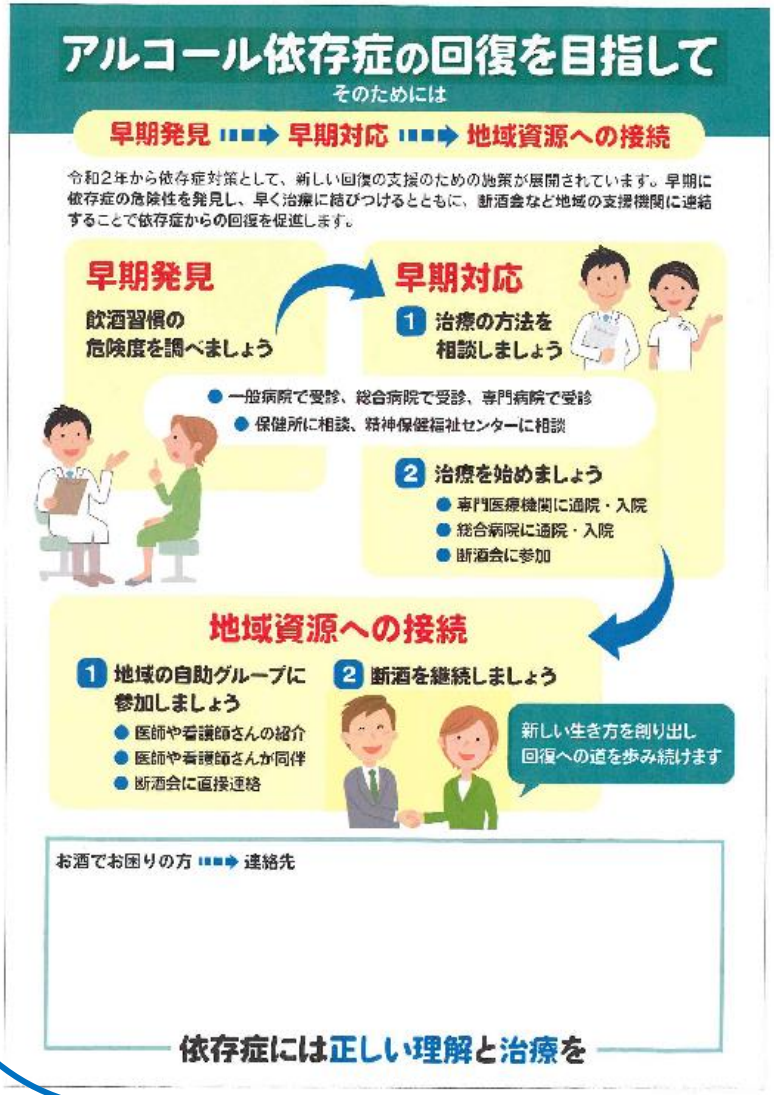
〇基調講演：SBIRTS実践の課題と展望

〇ワーク･ショップ

〇分科会（本人４班、家族１班）
1.地域におけるSBIRTSの普及度（現状）は？
2.地域での医療やコメディカルスタッフ、行政、地域施設等との関係は？
3.地域において、今後、SBIRTSを展開するための対応は？

アルコール関連問題啓発週間

～全国一斉街頭キャンペーン～



SBIRTSの普及のために

自助グループの役割について

連携機関に自助グループを認知してもらう

○まず、医療関係者に自助グループの存在を知ってもらう
　一般医療、総合病院への働きかけが重要

○関係機関と自助グループの信頼関係、顔の見える関係の構築

○関係機関スタッフを自助グループの例会・ミーティングに招待し、
　回復者の声と姿を実地に体験してもらう

○関係機関と自助グループがSBIRTSの意義を共有する
　双方がSBIRTSのスキルを身につける

○関係機関からの紹介を受け止め、応える体制を整える

アルコール依存症対策のため

顔の見える地域連携を推進し
紹介された皆様に大切に寄り添い
アルコール依存症からの真の回復を